



日立一高ラグビー部OB会 会報

現状を見て思いを新たに

OB会会長 吉田 尚一

OB会員の皆様 新年明けましておめでとうございます。今年は日立一高ラグビー部にとって創部60周年の輝かしい記念の年を迎えました。

「光陰矢のごとし」の通り早いものでOB会も新役員でスタートして2年が過ぎようとしております。

この間のOB会活動と現状を踏まえ、今後の活動について申し述べ皆様のご支援・ご協力をお願いするものです。



1. 現役の現状

部員確保が思うように行かずチーム編成がやっとの状態で戦績も1回戦ボーイで、ついに今年の新人戦は単独チームで出場できず他校と合同で出場せざるを得ない状況となっており、実に情けなく淋しい限りで大ピンチとなっています。

2. 現役の指導

OB会組織の中に現役指導グループを編成し指導に当たることにはしておりますが部員確保が困難で、OB会に対し先生の方から指導の要請もなく思うような指導が出来ておりません。部員確保は監督及び現役生徒の情熱に頼る以外方法はなくOB会としてはそれらの動機付けを強力に推し進めて行きます。

3. 今後の課題

- (1) 現役部員の確保・・・・・・監督及び現役部員による懸命な努力
- (2) 監督とOBとのコミュニケーション強化・・問題点と対応策について対話ができる環境作り
- (3) 現役指導グループの強化・・・・・・監督とOBが協議の上、強化方法、スケジュールの作成・実践
- (4) 父母の会結成・・・・・・監督、現役そしてOBで部活動と進学などの環境整備の話し合い

4. 一高ラグビー部伝統の継承

現役あつてのOBであり、OB会の存在価値は現役の後押しと言っても過言ではありません。現役が多く集まり、汗して強くなることがOBにとっての最も関心事で伝統を継承する最大のポイントであることを痛感しております。

5. 創立60周年記念事業の完遂

実行委員長を中心に役員が担当を分担して準備を進めております。

6月17日(土)の記念事業には多くのOB会員が参集し盛大に出来るようにしたいと頑張っております。

6. OB会員相互の親睦強化

OB会員の親睦を深めて団結するためにいろいろなイベントを企画・計画しております。

最近のゴルフコンペもその一環で、その他この会報作り、蹴り初め、春・夏の合宿時など、趣向を凝らして計画して参りますので多くのOB会員のご参加をお待ちしております。

いつもの常連ばかりでなくお久しぶりのOB会員を大歓迎いたします。

以上私の嘆きが中心となりましたが、OB会員の皆様には今まで以上に関心を持っていただきご支援・ご協力をお願い申し上げます。最後に皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

創部60周年記念事業のご案内**OB会幹事長 近藤 雅年**

終戦後の翌年、辺り一帯焼け野原で食べ物も着る物も住む所もそれこそ何もない昭和21年（1946年）に県内高校で初めてわが日立一高にラグビー部が創設されてから今年・平成18年（2006年）で満60周年を迎えることができました。

その間、学校の良きご理解のもとで監督そして部員のたゆまぬ努力とOB会員の大きな支援により、全国大会5回（県内3位）、関東大会28回（県内1位）出場という県内高校ラグビー史上に残る輝かしい戦績を残し、歴史と伝統を築いて参りました。

この機会に、創部60周年のお祝いをOB会全員650人でささやかにいき、最近の現役の低迷からの脱却を図る契機としたいと次の記念事業を計画しました。ここにご案内申し上げ、ご支援とご協力をお願いするものです。

1. 記念祝賀会

平成18年6月17日（土）午後5時30分から、ホテル天地閣で、会費は5,000円で。

懇親パーティの前段で前会長・幹事長への感謝状授与、現役への記念品贈呈あり。

2. 記念招待試合

平成18年6月17日（土）午後1時から、日立市民運動公園 陸上競技場で。

対戦相手は昔からのライバルの「県立太田一高」で現役・OBの2試合を行う。

この試合観戦後に祝賀会会場に移動することになる。

3. 記念誌発行

50年史以降の年代を詳しく、それ以前は各年度1ページで紹介する形式。

B5版、全体で130ページ、OB負担金協力者並びに現役に配布。

4. 現役への記念品寄贈

記念に残るラグビー関係用具を寄贈する。

現役の奮起を願い、OB負担金の中から捻出する。

5. OB負担金

1口 10,000円以上の負担をお願いする。

上記記念事業費用としてご協力をお願いするもので、1月中にOB会員全員に封書にてお願いする。

6. OB会年賛助会費制度の導入

この60周年を契機に通常のOB会運営費用を賄うために、OB会員に毎年定期的に年賛助会費として年間一人当たり2,000円以上のご協力をお願いすることにする。

従前は全国大会出場時の寄付金と10年毎の周年記念事業時のOB会負担金の残金でOB会運営費用を賄ってきたが、昭和59年以降22年間全国大会には出られず寄付集めの機会がなく、また、その分を今回の60周年記念事業だけで賄うと、OB負担金が高額（30,000円以上）となり集金が難しくなるため定期的に負担をお願いすることにする。

今年から毎年6月にOB会員に振込み用紙を入れて納入をお願いすることにする。

「お金がないからOB会活動はやれない」ではなく、OB会活動をするために活動計画と予算並びに前年の活動結果と決算を毎年6月に行われる学年幹事会で審議・決定するという前向きなやり方に改め、OB会活動の活性化を図って行き、強いては現役の強化に繋げて行くことにする。

以上の記念事業に関しては、昨年6月開催の学年幹事会で検討の上承認されております。

あの人は今

第5号から、20～30歳代・40～50歳代・60歳以上の各世代ごとに、お一人ずつ昔の思い出や、近況等の御紹介をいただくコーナーを設けました。

今回は、新保栄さん、黒沢祐士さん、尾又彰彦さんの3人をお願いしました。お忙しい中ありがとうございます。

「ラグーマンとして」 新 保 栄 (昭和32年度・第10回卒)

日立一高ラグビー部OB会会報第5号に、大友敏勝先輩の原稿が載っているのを読んで高校時代に戻ったような気持ちになった。教わった先輩たちも同じ方々であり、夏合宿も同じような方法で教わったことを記憶しており、練習後にトイレに入って立つのに苦労した思い出がある。

また試合では、関東大会県予選で水戸農高と決勝となり、0対0の引き分けの試合があったことである。この戦いは正に五分と五分の勝負であったが、フランカーの近藤雅年君がスクラムサイドを抜いてトライをしたことを鮮明に覚えている。しかし審判から認められず5ヤードスクラムとなり、引き分けとなった。今でも、あの試合は勝ったといつも心の中にある。審判に異議申し立てができないのが規則であることは私も承知しているが、今にしてみれば高校時代の最高の思い出である。

卒業後、一時市役所に勤務したが、消防署設立のため消防署に転勤。いろいろな訓練に参加したが、高校時代のラグビーが役立って、各種の訓練に耐えることができた。育ち盛りに厳しい練習で培ったことが、消防に役立つとは思ってもいなかった。

高校卒業後、ラグビーを楽しむ機会はなかったが、40歳の年に北茨城市ラグビー場で不惑の試合をする機会に恵まれ、参加したところ皆さんの助けによって2トライすることができて、再び不惑ラグビーに参加することになった。その後、東日本不惑大会に数回出場させてもらったが、昨今はひざの痛みがあり、さっぱり走り込んでいない。機会があれば走り込みから始め、再び試合に臨みたいと思っているが、気ばかりあせってさっぱりだめになってしまった。やっぱりスポーツは基本の練習と継続が大切であると考えている。

後輩諸君、日立一高には文武両道の教えがある。勉強も大切だが体を鍛えることも大切である。

現役に期待する。名門日立一高のラグビーの復活を

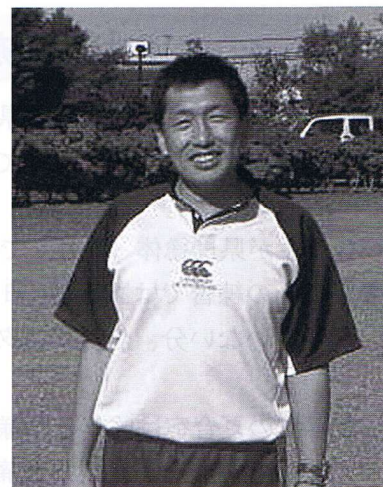


「自分の原点：ラグビー賛歌」 黒 沢 祐 士 (昭和50年度・第28回卒)

高校へ入学し「何部に加入しようか」と考えた。みんな経験がなく、同じスタートラインに立てるラグビーを選んだのが始まりで、30数年がたった。今でも常陸不惑の一員として年数回の試合を楽しみにプレーしたり、週末には小学生のラグビーコーチをしたり、また、茨城県ラグビー協会の一員として、ラグビーの普及育成にも努めている。何でこんなにラグビーとつきあえるのだろうか。不思議なものだが、その原点はやはり高校時代の経験だろう。

私が入学した頃の一高は、まだまだ蛮カラな校風が残り、生徒総会で私服登校の決議が行われる自主自律の学校だった。そんな校風もありラグビー部の練習も自主的だった。しかし、松本先生が転出され監督がいなくなった3年の時が転機になったように思う。それまでもラグビーが好きで自分から取り組んでいたが、目標ははっきりしていなかったように思う。

3年の時『全国大会を目指す』という目標を《自分で勝手に》持つようになった。しかし、同級生は皆関東大会予選で引退、全国大会予選には3年は自分一人と下級生で目指すことになった。(下級生たちも目指して



はいなかったかもしれないが…)

監督がいなければ部活動ができない状況で監督を引き受けてくれた内田先生。当時コーチをしていていた、吉田さんや尾又さんたちOBの熱意。いろいろな経験をさせていただいた菅原さん。いろいろな方たちに支えられ1年間は過ぎた。なかでも印象に残っていることは、その年全国出場を果たした北茨城高校との練習試合。茨城国体チームメンバーの小坪先生・大月先生率いる太田一高との合同夏合宿。やはり厳しかった。ぶつかってもぶつかっても越えられない壁があったこともいい経験になった。

全国大会には出場できなかったが、高い目標を持ちそれに向かって突き進んでいるときの充実感。青春時代を燃えさせてくれたのがラグビーである。この高校時代の原点が今も自分の中に生きていると思う。

「一高ラグビー部と私」 尾 又 彰 彦 (平成2年度・第43回卒)

確か、私の記憶には残っていないのですが、3才ぐらいからだったと思います。父の影響も有り、その頃から私たち兄弟の遊び場は一高のグラウンドでした。言わば、その当時から私の仮入部が始まっていたのです。

私の一高ラグビー部仮入部時代の戦歴は輝かしく、全国大会花園応援3回、県内公式戦111連勝とまさに破竹の勢いでした。私が小学校4年生の頃などは、あのスクールウォーズのモデルになった当時の伏見工業高校に敗退したものの、花園ベスト16で高校ラグーマンにとっては憧れの正月を花園で迎えることが出来ました。

そうした環境で育った私は、当然、仮入部が終わり、正式に入部したら全国大会に出場出来るものだと、思い込んでいました。(実は、その前に一高に入学できるか、の話もあったので、中学生の頃は自然と足が遠のきました。笑・・・)

時代が変わるのは早いもので、いざ一高ラグビー部に入部してみると、茗溪学園・清真学園・常総学院と私立高校が実力をつけており、全国大会出場どころか関東大会出場まで危ぶまれていました。

私が高3の頃には茗溪学園に当時、高校ラグビー界の金字塔であった公式戦111連勝まで破られるところまできていました。私たちが、それは打ち崩しましたが。

そして現在、更に時代は変わり、部員不足・公式戦への出場すら危ぶまれています。一高ラグビー部は、私の歴史と思っています。現在、私の息子も祖父に連れられて、相変わらず一高のグラウンドに遊びに行っています。今こそ、現役学生を含め、先生・OB会・地元のラグビー支援者と協力して、また、活気と伝統のある一高ラグビー部に復活するように、この場を借りて皆様に興味を持って、応援して頂きたいと思います。



現役の今年度の戦跡 (6月以降)

1月の新人大会から6月の県民総体までの経過は前号でお知らせしましたので、6月以降の活動・取り組みについて吉沢監督に振り返ってもらいました。

3年生が県民総体(6月)で引退し、1・2年生10名で新チームがスタート。メンバー不足のため個人スキル中心の練習ではあるが、日々部員勧誘を継続しながらの活動を継続中。昨年までのように個々の能力の高い選手がいない分、全員でスタミナ、パワーアップを課題に練習に取り組んでいる。

菅平での夏合宿は昨年と同様に太田一高と合同で実施。毎日の練習ゲームで個々のスキル・スタミナなどすべての面での向上が必要だと痛切に感じた。1年生にとっては初めての経験ばかりとなったが今後の活躍に期待が持てる合宿となった。

全国大会予選には3年生を含めたメンバー編成で望む。水戸農高に対して随所に好プレーを見せるも敗退。(14-55)

新人大会にはメンバーが組めず、中央高、土浦工高と合同で出場。(初戦1月16日・堀原G・14:00 KO・対太田一)

わがOB会から初の衆議院議員誕生

去る平成17年9月に行われました衆議院議員総選挙において、岡部英明氏(昭和51年・29回卒)が衆議院議員に初当選いたしました。わが日立一高ラグビー部は今年創部60周年を迎えますが、国会議員の誕生は初めてで、誠におめでたく、歴史に華を添えることができました。

この選挙戦にあたり「岡部英明君を支援する日立一高ラグビー部OB有志の会」(代表:尾又篤氏)をつくり、皆様に集票活動をはじめ、いろいろとご協力をいただきお陰様で当選することができました。この紙面を借りて厚く御礼申し上げますと共に今後ともご協力いただきたく宜しくお願い申し上げます。



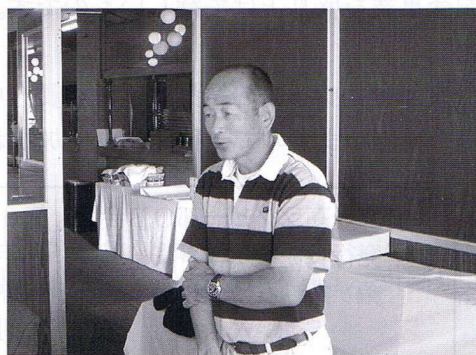
第一回 OB会会長杯ゴルフコンペ開催



一昨年4月の役員改選で従来にも増してOB会の活性化を図ろうと画策する中、昨年10月23日(日)茨城パシフィックカントリー倶楽部で27人が参加して第一回OB会会長杯ゴルフコンペを開催した。(OB会のゴルフコンペは、25年前まで初代監督の大和田幡一郎杯として15回ほど開催され、中断していたものを今回OB会会長杯として復活した。)

ゴルフをやる人を主だったOB会員に働きかけて調べてもらい50人に開催案内を出し、上は68歳、下は33歳までの年齢差、遠くは東京・栃木、近くは地元の27人の参加のもと賑やかに開催され、地元の村山功氏がベスグロで優勝し会長杯を手にした。

今後も年1・2回開催を予定しており、より多くの方の参加を待っている。余談となるがこのゴルフコンペの機会を利用してゴルフに参加しない人も混じり、前日に平潟の民宿に泊まり旧懇を温める酒盛りをした超OB会員10人がいた。



【優勝した村山功氏】

1月3日（火） 新春恒例の「蹴り初め」開催

平成18年1月3日（火）抜けるような快晴の下、ラグビー部新春恒例の「蹴り初め」が、日立一高グラウンドで開催されました。今回の「蹴り初め」は、6月17日（土）に開催される「総部60周年記念招待試合」対太田一高OBとの一戦に向けたセレクションマッチを兼ねて実施したこともあり、早朝から約70人のOBが集結。吉田OB会長、吉沢監督の新年あいさつに続いて、昨年9月の総選挙で当選した岡部英明衆議院議員（昭和51年度・第29回卒）からもあいさつがあり、和やかな中にも日立一高ラグビー部復活に向けた、OB諸氏の熱い思いが伝わってくる年明けとなりました。



残念ながら現役部員の参加が7人しかありませんでしたので、残り8人はOBの中から選りすぐりの精鋭を補強し、身をもって現役に範を示すことを目的として、現役との混合チーム対OBチームの試合を25分前後半で実施。先輩たちのボールへの執着心や巧みなボディコントロール、地域や陣形を見極めたゲームの組み立てなど、現役にとっては生きた手本として肌で感じ取れる、貴重な体験になったことでしょう。

軽快なフットワークの「走る弁護士」や「プレーキの壊れた銀行員」など個性豊かなプレイも続出し、スタンドからも大きな歓声が沸いていました。

最終の3ラウンド目は、当日参加したOBのベストチームを編成。6月の招待試合を意識したゲームでしたが、日頃の練習不足や特定のポジションへの選手の偏りもあり、両チームともややお疲れ気味のゲームとなりました。

試合終了後はFWとBKに分かれて、OBから現役に指導する時間を設けました。短い時間ではありましたが、ひとつでもふたつでも先輩の技術を受け継いで、来るべき新人戦に発揮できることを期待しています。

最後に、早朝からマネージャーとお母さん方、そして毎年お世話になっている大内二郎さん（昭和27年度・第7回卒）が作ってくださった豚汁（うどん入り）をいただいて解散となりました。

4月には、新1年生が入学してきます。総力を挙げて勧誘に励み、一人でも多く部員を増やして、60周年記念事業を盛り上げて欲しいものです。



（※セレクションの結果は選考委員会を中心に検討し、後日、本人あて直接ご連絡します。6月に向けて練習会を開催しますので、積極的な参加をお願いいたします。）

日立一高ラグビー部OB会報 第6号

発行責任者：幹事長	近藤 雅年（昭和33年 第10回卒）	木下 俊雄（昭和55年 第32回卒）
編集者：幹事	松永 啓（昭和41年 第18回卒）	深谷 充志（昭和55年 第32回卒）
	柴田 和則（昭和58年 第35回卒）	関 稔一（昭和58年 第35回卒）
	笠井 知洋（昭和60年 第37回卒）	菊池 敬（昭和62年 第39回卒）
	本田 浩一（平成3年 第43回卒）	金澤 勉（平成5年 第45回卒）

事務局：〒317-0065 茨城県日立市助川町3-7-4 木下俊雄気付

【電話】0294-21-4890（FAX同じ）